

腓外傷を契機に発見された 下大静脈後尿管の1例

みつ い よう ぞう あり ち なお こ ひら おか たけ お
三 井 要 造 有 地 直 子 平 岡 毅 郎
わ け こう じ いの うえ しょう ご す むら まさ ひろ
和 気 功 治 井 上 省 吾 洲 村 正 裕
ほん だ さとし しい な ひろ あき い がわ みき お
本 田 聡 椎 名 浩 昭 井 川 幹 夫

キーワード：下大静脈後尿管，無症候性，外科的治療

要 旨

症例は17歳，男性。2008年4月サッカーの試合中に腹部を打撲し当院を受診。腹部CTにて腓尾部損傷を認め，当院外科にて緊急手術が施行された。その際，右水腎症を指摘され当科へ紹介となった。CTで右下大静脈後尿管と診断したが，尿路感染症の既往や腰痛等の自覚症状に乏しく，また腎機能は保持されていたため，外来経過観察とした。1) 腎機能低下，2) 尿路感染症，3) 尿路結石の形成等の危険性を考慮し，2008年12月に尿管切断術と尿管尿管吻合術を施行した。術後経過は良好で，現在水腎症は改善している。

緒 言 症 例

下大静脈後尿管は，胎生期における静脈系の発生異常が原因で生じる比較的稀な泌尿器科奇形である。大半の症例で水腎症を合併し，特に疼痛，尿路結石，腎盂腎炎などを伴う場合は外科的治療が必要である。今回，腓外傷を契機に偶然発見された無症候性下大静脈後尿管に対し，尿管切断術，尿管尿管吻合術を施行したので，文献的考察を加えて報告する。

症例：17歳，男性。

主訴：腹部打撲後の腹痛。

家族歴，既往歴：特記事項なし。

現病歴：2008年4月高校で行われたサッカーの試合中に，相手選手に腹部を強く蹴られたため近医を受診。腹部CTにて腓損傷が疑われ同日当院へ緊急搬送となった。

受診時現症：身長178.5 cm，体重76.5 kg，血圧140/87 mmHg，顔面は蒼白，腹部全体に圧痛を認めた。

受診時検査所見：末梢血一般：WBC 23,080/ μ l，RBC 506×10^4 / μ l，Hb 16.4 g/dl，Ht 48.0%，

Yozo MITSUI et al.

島根大学医学部泌尿器科

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1